

南部アフリカ地域の悲願、カズングラ橋の建設

JICAは、南北回廊のボトルネックとなっていたボツワナ・ザンビア国境をつなぐ「夢の架け橋」の建設に向けて、2012年度、両国に円借款を供与しました。

2012年10月、JICAは、南部アフリカのザンベジ川に架ける「カズングラ橋建設事業」のために、ボツワナ共和国に約87億3,500万円、ザンビア共和国に28億7,700万円を限度とする円借款貸付規約を結びました。本件は、「アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ(EPISA for Africa)」の一環であり、アフリカ開発銀行との協調融資によるものです。

ボツワナとザンビア両国は、資源に依存した経済から産業の多様化を目指しています。内陸国の両国が大きな期待をか

けているのが、南アフリカのダーバン港につながる南北回廊を通じた物流の活性化です。しかし、両国の国境を流れるザンベジ川の移動手段はフェリーのみであり、トラック運転手は国境通過に平均約30時間を要しています。このため、橋の建設は両国を含む南部アフリカ地域の悲願となっていました。

今回の円借款による資金で、ザンベジ川に延長930mの鉄道併用橋「カズングラ橋」を建設し、国境管理施設を設けて

通関手続きの簡素化することで、越境時間を6時間に短縮し、物流のボトルネックの解消が期待されます。

カズングラ橋の完成は、2018年3月の予定です。



重量トラックを運ぶフェリーの様子